

INABA DENKI SANGYO CO.,LTD.

2025年3月期
第2四半期（中間期）決算説明資料



因幡電機産業株式会社 東証プライム：9934

ただいまより、因幡電機産業株式会社「2025年3月期第2四半期（中間期）決算」の説明を行います。

私は、代表取締役社長の喜多でございます。

どうぞ宜しくお願いいたします。

- 2025年3月期 第2四半期（中間期）決算概要
- 重点施策の取り組み
- 2025年3月期 業績予想

見通し、計画、目標等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

まず、2025年3月期第2四半期（中間期）決算の概要をご説明したのち、重点施策の取り組みと業績予想についてご説明いたします。

連結損益計算書

(百万円)

	FY23 2Q	構成比	FY24 2Q	構成比	増減額	増減率
売上高	158,787	100%	179,729	100%	20,942	13.2%
売上総利益	27,190	17.1%	31,335	17.4%	4,144	15.2%
販管費	17,391		19,509		2,117	12.2%
営業利益	9,799	6.2%	11,826	6.6%	2,026	20.7%
営業外損益	879		591		-288	-32.8%
経常利益	10,679	6.7%	12,417	6.9%	1,738	16.3%
特別損益	290		-174		-464	-
税金等調整前 中間純利益	10,969	6.9%	12,243	6.8%	1,273	11.6%
親会社株主に帰属する 中間純利益	7,484	4.7%	8,438	4.7%	954	12.7%

※本資料掲載情報は、特に記載のない限り、数値は表示単位未満は切捨て、比率や増減率は四捨五入で表示しております。
また、増減率が1,000%を超える場合や比較対象の一方もしくは両方がマイナスの場合は「-」表示しております。

Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

3

スライドの資料は連結損益計算書を表示しております。

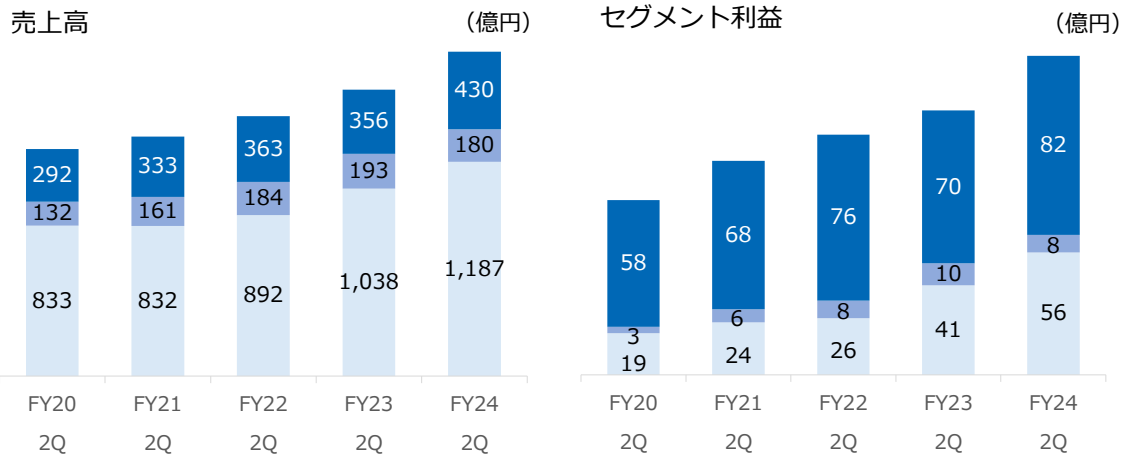
売上高は、前年同期比で13.2%増加の、1,797億2,900万円となりました。

売上総利益は、15.2%増加し、313億3,500万円、
売上総利益率は、0.3ポイント上昇し、17.4%となりました。

人件費や荷造運賃などの増加があったものの、
営業利益は、20.7%増加の118億2,600万円となりました。

経常利益は、16.3%増加の124億1,700万円、
親会社株主に帰属する中間純利益は、12.7%増加の84億3,800万円となり、
第2四半期（中間期）決算として過去最高業績を更新しました。

■ 電設資材 ■ 産業機器 ■ 自社製品



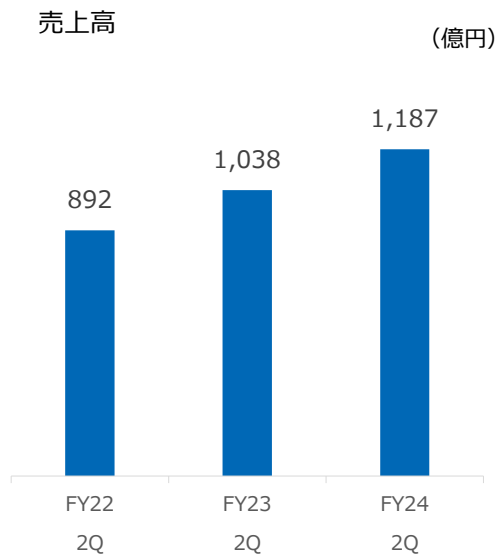
※FY21より収益認識に関する会計基準等を適用し、FY20以前の遡及適用はしていません。

次の資料はセグメント別の業績推移をグラフ化しております。

セグメントにつきましては、商社部門の「電設資材事業」と「産業機器事業」、そしてメーカー部門の「自社製品事業」と、大きく3つに分類しております。

ご覧の通り、売上構成では商社部門が大きなウェイトを占めておりますが、利益構成ではメーカー部門の「自社製品事業」が柱となっているのが、当社の事業構造の特徴であります。

次に、各セグメントの業績につきまして、順次ご説明いたします。



売上高 前年同期比+14.3%

物流コストや原材料価格の高騰などによる販売価格の上昇が継続。

商品別では銅価格の高騰が電線ケーブル類の売上に大きく寄与したほか、西日本エリアにおける再開発や製造業の設備更新などの大型物件向けに防災設備や受配電設備等の納入があった結果、増収。

参考指標

	前年同期比	
	FY23 2Q	FY24 2Q
民間非居住建築物 着工床面積	Δ18.5%	Δ9.6%
新設住宅着工戸数	Δ6.2%	Δ0.8%

出所：国土交通省

Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

5

まず、電設資材事業の業績についてご説明いたします。

電設資材事業は、オフィスビル、商業施設、工場、住宅向けに電線や照明器具、受配電設備などの電設資材を販売しております。

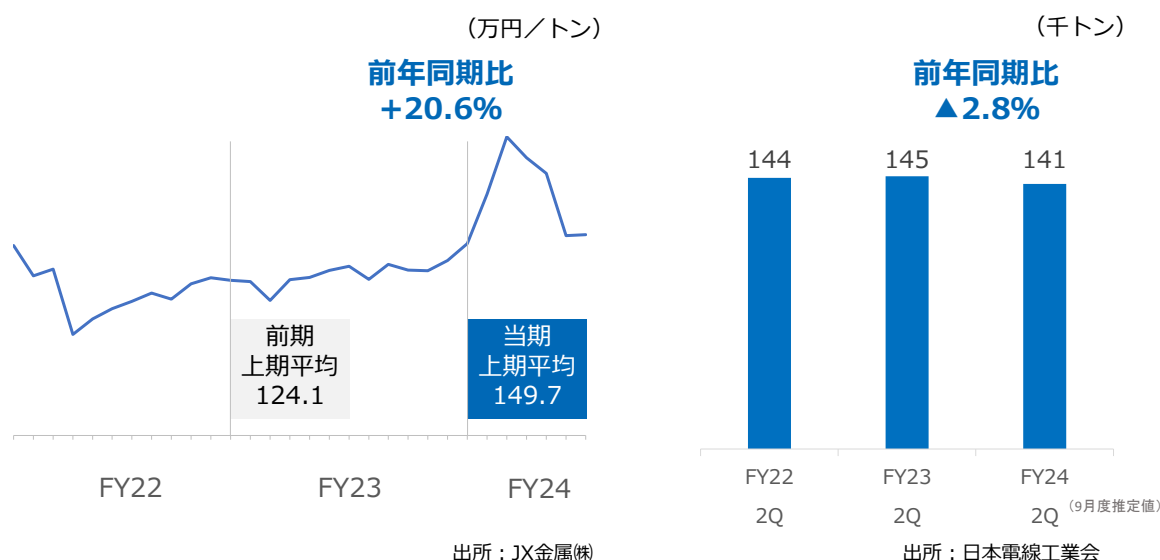
売上高は、前年同期比で14.3%増加し、1,187億円となりました。

物流コストや原材料価格の高騰などを受け、電設資材全般において販売価格の上昇が継続しました。

商品別では、銅価格の高騰が電線ケーブル類の売上に大きく寄与したほか、西日本エリアにおける再開発や製造業の設備更新などの大型物件向けに、防災設備や受配電設備などの納入がありました。

■銅建値

■銅電線（建設・電線販売業）出荷量



Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

6

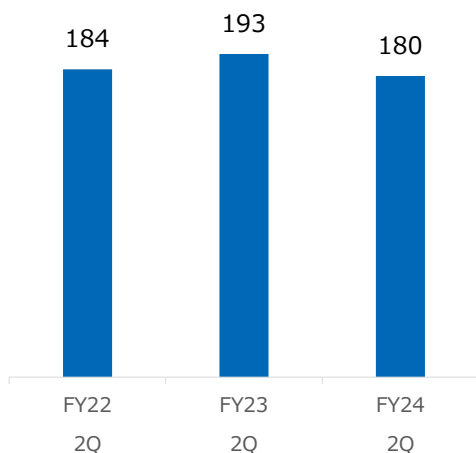
この資料は、電線に関する銅の市況を示したスライドになります。

左側の折れ線グラフは国内における「銅建値」、
右側の棒グラフは建設・電線販売業における「銅電線の出荷量」の推移を表しております。

銅建値は高い水準を維持し、上半期平均の前年同期比では 20.6%のプラスとなりました。

建設・電線販売業における銅電線の出荷量は、前年同期比で減少とみられておりますが、当社では、販売価格の適正化に加え、在庫施策、営業努力により販売量も業界平均を上回り、電線ケーブル類の売上は前年同期比で約 17%増加いたしました。

売上高 (億円)



売上高 前年同期比△6.7%

人手不足に伴う省力化・自動化需要などを背景とした製造業における設備投資は底堅く推移。一方でコロナ禍の巣ごもり需要の反動減による半導体の在庫調整の影響が継続し、制御機器及び電子部品の販売が減少。

参考指標

	前年同期比	
電気制御機器 国内出荷額	FY23 2Q +3.8%	FY24 2Q △22.4%
電子部品・デバイス 生産実績	FY23 8月累計 △7.7%	FY24 8月累計 +11.8%

出所：日本電気制御機器工業会
電子情報技術産業協会

Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

7

次に、産業機器事業の業績について説明いたします。

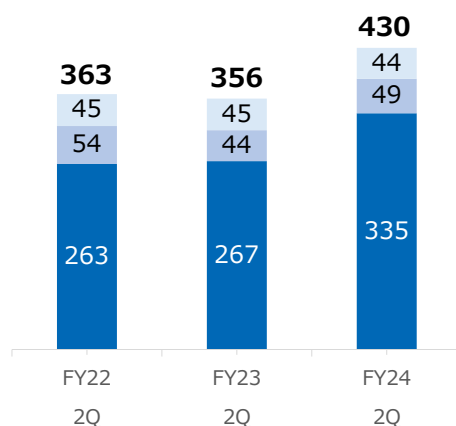
産業機器事業は、制御機器や電子部品を取り扱っており、そのため、国内における設備投資の動向に影響を受けています。

売上高は前年同期比で6.7%減少し、180億円となりました。

人手不足に伴う省力化・自動化需要などを背景とした製造業における設備投資は底堅く推移しましたが、一方でコロナ禍の巣ごもり需要の反動減による半導体の在庫調整の影響が依然継続しており、制御機器及び電子部品の販売は減少しました。

売上高 前年同期比+20.6%

■空調分野 ■産業分野 ■住宅分野 (億円)



Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

空調分野 **INABA DENKO**

売上高 前年同期比+25.6%

自社製品事業の7割以上を占める収益の柱

参考指標

ルームエアコン 国内出荷台数

前年同期比	FY23 2Q	FY24 2Q

出所：日本冷凍空調工業会

産業分野 **PATLITE®**

売上高 前年同期比+12.4%

車載機器などの販売が好調で増収

住宅分野 **Abaniact**

売上高 前年同期比△0.9%

新設住宅着工戸数の減少等により売上は伸び悩み

8

次に自社製品事業の業績についてご説明いたします。
 自社製品事業は、主に3つのブランドで構成されております。
 空調分野の「INABA DENKO」、住宅分野の「アバニアクト」、
 そして産業分野の「パトライト」でございます。

売上高は、前年同期比で20.6%増加し、430億円となりました。

分野別の業績につきましては、
 空調分野は前年同期比で25.6%増加し、335億円となりました。
 原材料価格をはじめ、製造や物流関連コストの上昇を背景として空調関連部材の価格改定を実施したことに加え、全国的な猛暑によりルームエアコンの出荷が増加したことに伴い、主力製品である被覆銅管や空調配管化粧カバー「スリムダクトシリーズ」などの販売が好調に推移しました。

産業分野は前年同期比で12.4%増加し、49億円となりました。
 海外市況が回復傾向にあることや車載機器事業における新製品投入などにより、増収となりました。

住宅分野は、新設住宅着工戸数が減少するなか販売が伸び悩み、前年同期比で0.9%減少の、44億円となりました。

空調分野に偏った売上を変革すべく、開発機能の一層の強化を図り、新たな収益の柱となる新製品開発に注力しております。

(百万円)

	FY23 2Q	FY24 2Q	増減額	増減率
受取配当金	431	514	83	19.3%
為替差益	336	-	-336	-100.0%
その他	174	252	77	44.1%
営業外収益 (A)	942	766	-176	-18.7%
支払利息	8	10	1	18.6%
為替差損	-	110	110	-
その他	54	53	-0	-0.4%
営業外費用 (B)	62	174	111	177.4%
営業外損益 (A - B)	879	591	-288	-32.8%

Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

9

次に、営業外損益についてご説明いたします。

前年同期に計上していた為替差益が差損に転じたことから、前年同期比で営業外収益は1億7,600万円減少し、営業外費用は1億1,100万円増加しました。

その結果、営業外損益は前年同期と比べ2億8,800万円減益の、5億9,100万円となりました。

特別損益



(百万円)

	FY23 2Q	FY24 2Q	増減額	増減率
投資有価証券売却益	288	-	-288	-100.0%
固定資産売却益	6	1	-4	-77.3%
特別利益 (A)	294	1	-293	-99.5%
固定資産除却損	4	1	-2	-56.8%
固定資産売却損	0	-	-0	-100.0%
その他特別損失	-	173	173	-
特別損失 (B)	4	175	171	-
特別損益 (A - B)	290	-174	-464	-

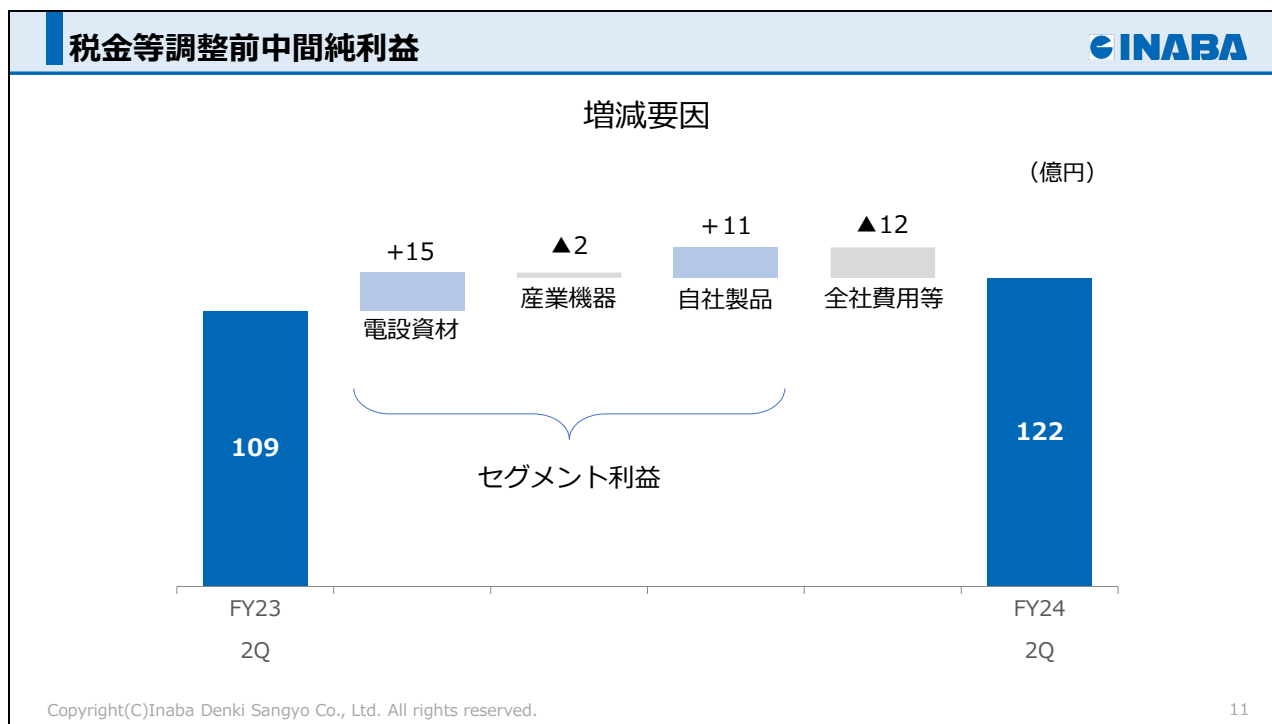
Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

10

特別損益につきましては、

特別利益は、前年同期に投資有価証券売却益を計上した反動減により 2 億 9,300 万円減少し、特別損失は、自社製品事業における売却予定資産について減損損失を計上したことにより 1 億 7,100 万円の増加となりました。

その結果、特別損益は前年同期と比べ 4 億 6,400 万円減益の、1 億 7,400 万円の損失となりました。



当社では「税金等調整前中間純利益」を管理会計上の利益指標としております。

税金等調整前中間純利益は 12 億 7,300 万円の増益となりましたが、その増減要因をグラフ化しております。

販売が好調だった電設資材事業と自社製品事業では増益、市況環境が低調だった産業機器事業は減益となりました。

為替差損の計上や投資有価証券売却益の反動減などにより、全社費用等は増加しました。

(百万円)

	FY23	構成比	FY24 2Q	構成比	増減額	増減率
流動資産	205,561	78%	193,939	76%	-11,621	-5.7%
固定資産	57,249	22%	60,623	24%	3,374	5.9%
資産合計	262,811		254,563		-8,247	-3.1%
流動負債	94,515	36%	79,885	31%	-14,629	-15.5%
固定負債	6,025	2%	6,860	3%	834	13.9%
負債合計	100,541	38%	86,746	34%	-13,794	-13.7%
純資産合計	162,269	62%	167,817	66%	5,547	3.4%

※FY24より法人税、住民税及び事業税に関する会計基準等を適用し、FY23は遡及適用後の数値を記載しております。

Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

12

次に「連結貸借対照表」をスライドに表しております。

資産と負債の減少は、主に前期末で膨らんだ売上債権と仕入債務の減少によるものであります。

自己資本比率は、前期末から 4.2 ポイントアップし、65.7%となりました。

(百万円)

	FY23 2Q	FY24 2Q	増減額
営業キャッシュ・フロー	3,450	6,699	3,248
投資キャッシュ・フロー	6,349	-5,899	-12,249
財務キャッシュ・フロー	-2,963	-3,041	-77
現金及び現金同等物にかかる換算差額	115	22	-92
現金及び現金同等物の増減額	6,952	-2,218	-9,170
現金及び現金同等物の中間期末残高	60,834	59,277	-1,556

Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

13

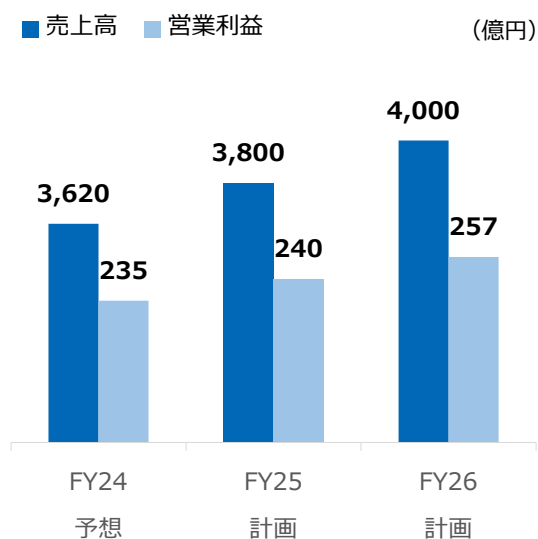
次に「連結キャッシュ・フロー計算書」をスライドに表しております。

営業キャッシュ・フローは、66億円のキャッシュ・インとなりました。これは主に、前期末に計上された売掛金などの回収に伴う売上債権の減少や、税金等調整前中間純利益の計上などによるものでございます。

投資キャッシュ・フローは、58億円のキャッシュ・アウトとなりました。これは主に、定期預金の払戻と預入の収支や、投資有価証券の取得によるものでございます。

財務キャッシュ・フローは、30億円のキャッシュ・アウトとなりました。これは主に、配当金の支払いによるものでございます。

この結果、現金及び現金同等物の中間期末残高は、前年同期末と比べ15億円減少し、592億円となりました。



重点施策

- ① 自社製品の開発・拡充
- ② 省エネ・省力化ソリューションの推進
- ③ 首都圏市場におけるシェア拡大
- ④ グローバル展開の加速
- ⑤ 事業領域の拡大
- ⑥ サステナビリティ経営の推進

Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

14

ここからは、中期経営計画と重点施策の取り組みについてご説明いたします。

当社は、経営環境の変化や計画の達成度に応じて、毎年度、向こう3カ年の数値目標をローリングし、見直しております。

2026年度の計画は、売上高4,000億円、営業利益257億円を数値目標としております。

中期経営計画を達成するため、

「自社製品の開発・拡充」

「省エネ・省力化ソリューションの推進」

「首都圏市場におけるシェア拡大」

「グローバル展開の加速」

「事業領域の拡大」

「サステナビリティ経営の推進」

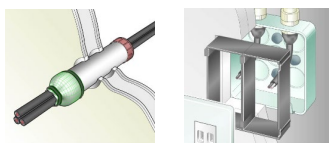
以上、6つの重点施策を掲げ着実に実行してまいります。

これら重点施策の中から、「自社製品の開発・拡充」についての取り組みをご紹介します。

「タイカエックス/タイカX」誕生までの歩み



1991年
業界初。冷媒配管用の防火区画貫通部材を発売。冷媒配管と防火区画の安全性との両立を実現



2007年
空調、衛生に加え電気分野にも対応するオールラウンドブランドとなり、「ファイヤープロ」シリーズを確立



シンカ タイカ
進化する耐火

2024年
長年培った耐火の技術力と“エックス”に未知の可能性へ挑戦する思いを込めリブランドを実施



2000年
建築基準法の改正を背景として「1時間耐火」製品を開発

2011年～
新製品を続々とラインナップ。省施工製品、パテレス仕様製品を開発

まずは耐火製品のリブランドに関するトピックです。

建物の施工において、各種配管が防火区画の壁などを貫通する際、開口部や配管を通じた延焼を防ぐ処理が必要となります。

当社では、1991年に業界初となる冷媒配管用の「防火区画貫通部材」を発売。その後、防火区画貫通部材のオールラウンドブランドとして「ファイヤープロ」シリーズを確立するに至り、耐火のプロフェッショナルとして建物の防災に貢献してまいりました。このたび、近年ますます高まる安全性への要求に応えるべく、「タイカエックス/タイカX」としてリブランドを実施しました。

自社保有の試験設備で耐火性能を追求し、空調・衛生・電気など、様々な種類の配管に対応した製品を取り揃えております。すべての製品が建築基準法で要求されている認定を取得していることはもとより、作業の負荷軽減や工期短縮を実現した省施工製品についても多数ラインナップしております。

これからも、長年培ってきた耐火の技術力を通じて、人々の暮らしの安心と安全に貢献し続ける所存です。

住宅用EV充電設備の課題解決に貢献

Abaniact



省スペース

軒下への壁固定が可能

簡単施工

コンクリートの打設や
屋外埋設配管、露出配管なし
で設置が可能

スッキリ収納

EVコンセントや
ホルダーなどを一括収納

Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

16

次に、住宅分野の自社製品ブランド、「アバニアクト」の取り組みについてご説明いたします。

アバニアクトは、住宅向けの情報配線システム、天井埋め込みスピーカーなどを取りそろえており、社会の変化に柔軟に対応し、地球にやさしい便利で快適な住環境をご提案しています。

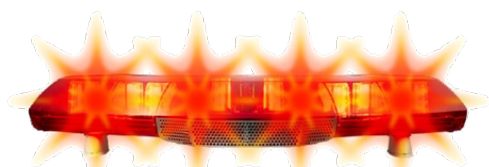
このたび、需要の高まる住宅用EV充電設備向けに、汎用性や施工性に優れたEVコンセントポール「Abani ポール」を発売いたしました。

さまざまなメーカーのEVコンセントが自由な配置で取り付けられるほか、業界初となる、壁固定での設置を可能としました。また、コンクリート工事や屋外配線工事の削減を可能とする設計で、施主様のみならずハウスメーカー様や工務店様の課題解決にも貢献できる製品となっております。

アバニアクトでは、絶えず変化する住宅関連市場のニーズを的確にとらえた製品開発に努めてまいります。

2024年10月より、聴覚障がいのバリアフリー対応製品を搭載したパトカーが全国の警察に順次配備

PATLITE® 散光式警光灯 AXS-M1型



緊急走行中の発光イメージ
(従来の緊急感のある発光)



パトロール中の発光イメージ
(ホタルの明滅を模倣)



Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

17

続いて、自社製品セグメントに属する連結子会社・パトライトの新製品に関するトピックです。

パトライトは、「光」「音」「文字」を活用した報知機器で、生産現場やオフィス、緊急車両などの幅広い分野へ、見える化にまつわる機器や（かんたん）IoTソリューションの提供を行っております。

このたびパトライトでは、警察庁、全日本ろうあ連盟と共同で聴覚障がい者に配慮した赤色灯を新たに開発しました。これを搭載したパトカーが、10月より全国の警察に順次配備されております。

これまでのパトカーは、緊急走行時もパトロール時も赤色灯の光り方は同じで、サイレンの鳴り方で違いを表現してきました。そのため、聴覚に障がいのある方にとっては緊急走行とパトロール走行の判別が難しい状況にありました。今回の新製品では赤色灯の発光パターンで緊急走行とパトロール走行を「見える化」し、一目で判別が可能な光り方を実現しました。

今後とも当社グループ一丸となって、事業を通じた社会課題の解決に邁進してまいります。

2025年3月期 業績予想



	FY23	構成比	FY24	構成比	増減額	増減率
(百万円)						
売上高	345,369	100%	362,000	100%	16,630	4.8%
営業利益	21,322	6.2%	23,500	6.5%	2,177	10.2%
経常利益	22,589	6.5%	23,800	6.6%	1,210	5.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	15,623	4.5%	16,400	4.5%	776	5.0%
 (セグメント別売上高)						
電設資材	241,068	70%	250,000	69%	8,931	3.7%
産業機器	37,955	11%	40,000	11%	2,044	5.4%
自社製品	66,346	19%	72,000	20%	5,653	8.5%

Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

18

最後に、2025年3月期の業績予想に関してご説明いたします。

2025年3月期の業績予想は、売上高3,620億円、営業利益235億円、経常利益238億円、親会社株主に帰属する当期純利益164億円の見通しです。

また、セグメント別の売上高につきましてはご覧の通りです。

上半期につきましては電設資材・自社製品事業を中心に増収となりました。

下期以降も企業の設備投資は堅調に推移すると期待される一方で、物流・建設業の2024年問題での「人手不足」「物流費の値上げ」等の影響や原材料価格の動向、半導体の在庫調整局面の長期化懸念など、先行き不透明な状況が予想されることから、業績予想は据え置きとしております。

経営企画室

Tel 06-4391-1835

Fax 06-4391-1856

E-mail keiki@inaba.co.jp

HP <https://www.inaba.co.jp/>



Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

19

以上で、因幡電機産業株式会社 2025 年 3 月期第 2 四半期（中間期）決算の説明を終わります。

ご清聴ありがとうございました。